

# 遊びも悩みも 極めれば、魅力。 関大で見つけた 「私らしさ」で 女子アナ界に行く。

フリーアナウンサー

## 塩尻 奈都子さん

関西大学 総合情報学部 2007年卒

1983年生まれ、京都府出身

ノートルダム女学院高校からカナダ・バンクーバーに留学、  
St. John's School卒。

大学時代は舞夢プロに所属し関西を中心にタレント活動。

2008年名古屋テレビ入局。

2011年ANNアナウンサー賞最優秀新人賞受賞。

2018年退社、2019年から

(株)キャスタークリエイト・ジャパン所属。

特技は英会話。

4歳上の夫と二人暮らし。



元メ〜テレ（名古屋テレビ）の局アナで、現在東京でフリーアナウンサーとして活躍する塩尻奈都子さん。

東海地方では「なっちゃん」の愛称でお茶の間におなじみの人です。

関西色を隠さない明るいトークで、メ〜テレの看板である朝の情報バラエティを7年以上も担当。

「底抜けの元気キャラ」が持ち味という塩尻さんに、緊張だらけの新人時代から

自分らしさへのブレイクスルー、そしてアナウンサー就活での貴重な体験を伺いました。

昨年までのアナウンサー生活は、メ〜テレ（名古屋テレビ放送）一色でした。新人から3年間は報道番組「UP!」を、後半の7年半は朝の情報番組「ドデスカ!」を担当して、早朝3時起床の生活。毎日、天気コーナーの最後に「今日も元気に行ってらっしゃ〜い」というのが私のトレードマークでした。

結婚がきっかけで30代で退社してフリーになりました。東京に出て不安だったけど、いい感じで仕事させていただいてます。すでにメ〜テレで特番ロケに何度か呼んでもらって、またご縁が繋がって。名古屋の皆さんに「ただいま」って言えるのが幸せですね。東京でも仕事が始まって、新しい

現場に足を運ぶのが楽しい。そんな毎日です。

メ〜テレ最後の「ドデスカ!」の生放送は、10年半アナウンサーやってきてよかったなって、一番思えた瞬間でした。「今日の天気は〜」と局の外でやっていると、今まで朝いつも見てくれた視聴者の方が、大勢会いに来てくれたんです。最後だから、って手紙やお花を持って。うれしかった。エンディングは皆さんと一緒に映って「今日も元気にいってらっしゃ〜い」と声を合わせて長年のレギュラーを終えました。カメラ前では何とかこらえたけど後はもう泣いて、泣いて…

# 楽しいことだけしてたら、もしかしてダメかも？ ギリギリでいつも、自分で道を決めてきた

小さい頃から活発な子でした。スポーツ大好きで中高はバレー部。かと思えば日本舞踊を約10年習って、大学時代は茶道をやったりと古風なところもありで、要するに色んなことに気が散って「これ」っていうのがない子でしたね。

学校は小中高一貫の私学でした。高1になる頃「同じ環境で遊び続けて、京極でプリクラばかり撮ってて（笑）将来どうなるんだろう」って不安になりだして。

勉強では唯一、英語に興味がありました。それで、自分で留学しようと決め、高校はカナダで卒業しました。この留学経験が後々に私の大きな「引き出し」になりました。

帰国後、9月入学できる大学を探して、関大を選びました。総合情報学部のある高槻キャンパスは当時できたてでキレイだったし、情報メディアという専攻がこれからの時代必要なものだと思って。通学が阪急電車で、学校終わったら梅田に出て遊べる！というのも気に入りました（笑）。

入学後は勉強するタイプでもなく、シーズンイベントサークルに入って、梅田で遊んで、大学帰りにUSJね！そんな風に学生生活を楽しんでいました。でも大学2回生から大阪の

放送局でアルバイトを始めて、これがアナウンサーを目指したきっかけです。事務所に所属して学生タレントとして番組に出る中で、局のアナウンサーさんと一緒に、楽しそうな仕事だ！と憧れたんです。

大学で情報メディアを専攻したのは大正解でした。テレビ局のアルバイトで現場を見ていると内容がスーッと入る。学生としては不真面目な方だけど、自分がわかる話だとドンドン引き込まれて意識を高く持てました。就職でテレビ局に受かって、人生の点と点がうまく一本の線につながった、と思います。



## キラキラ度もストレス度もMAXな、女子アナ就活 捨て身ではじけた瞬間、ミラクルは起きた

私の就活のスタートは東京で、キー局のテレビ局でした。面接官の質問の掘り下げがシビアで、手足が今までにないくらい震えました。少々自信があっても、全然ダメ。ポーンって行けない。すごそうな受験生ばかりだし。関大は関西では素晴らしい大学だけど、東京のキラキラした大学名を聞くと、シュンとなってしまふ。でも今ならわかるけど、どこでも堂々と「関西大学です！」がいいんですよ。アナウンサーって結局、人としての魅力が一番見られる。試験官がひと目で「何か

この子はひきつけられるな」という原石のような人なら、全然しゃべれなくても採る場合もあるんです。その人なりの自分磨き、自信の輝きが大事です。

キー局は全部落ち、そこから場慣れはしていましたが、私は本命に行けば行くほどまたガチガチになって。人って欲が強すぎるとダメです。結局、本当に行きたかった大阪のテレビ局では一番緊張して、最終試験で落ちました。

でもいい経験でした。なにくそという闘志がどんどん強くなった。実は商社や外資系企業も考えていたんですけど、落とされる度に「アナウンサーになりたい欲」が不思議と増していつて、予定外に福岡と名古屋のテレビ局を受けました。

落ちた経験と、絶対にアナウンサーになる！という強い思いが、メ〜テレでいい形で表れました。名古屋は縁もゆかりもない分、もう落ちてもいい！と逆にリラックスして、パーンと思いきり自分を出せたみたいです。こんな性格で、おバカな私のままを出したのに、採用してくれて、10年もいられました。名古屋が私の運命だったんですね。



## 塩尻さんのある1日

- 7:00 起床～朝食  
●まずはコーヒー→お気に入り野菜ジュースを1本。  
時々フルーツ。
- 8:30 東京から名古屋へ  
●新幹線で古巣の名古屋テレビ入り。  
●車内でスケジュール確認、メール返信。
- 11:30 ロケ  
●新オープンの観光スポット。お昼はロケバスでお弁当。  
●局に戻りタイトルコール録音など。
- 16:00 名古屋から東京へ  
●車中は動画・ワンセグ視聴、読書、情報インプット。
- 18:00 東京着、買い物  
●家の近くのスーパーで夕食材料調達。
- 19:00 夕食  
●作り置きしていたサバの味噌煮、京風のおばんざい。  
魚・野菜中心。  
●スケジュールにより夫と別々に外食も。
- 21:00 テレビをながら視聴  
●家事をしつつ話題のドラマ、  
旬の人が出る番組をチェック。
- 23:00 入浴
- 23:30 ファミリータイム  
●来年行きたい旅行について語り合う。
- 24:00 就寝

みんなの「なっちゃん」  
今日も元気に  
やってま～す！

塩尻奈都子オフィシャルブログ

<https://ameblo.jp/natsuko-shiojiri/>

名古屋で応援してくださっていた視聴者のみなさんに

「フリーで東京でがんばってる姿を見たい」

という声をいただいて、ブログを始めました。

出演番組などスケジュールもこちらでご報告しています。

覗いてみてくださいね！

〈塩尻奈都子 お仕事へのお問い合わせ〉

株式会社キャスタークリエイト・ジャパン(CCJ)

〒107-0062 港区南青山1-15-14 新乃木坂ビル8F

TEL: 03-6804-2007 FAX: 050-3730-5888

CCJ 塩尻奈都子プロフィール

<https://ccj-pro.co.jp/profile/natsuko-shiojiri>



## 無縁の名古屋で「花の女子アナ生活」スタート でもつつい、関西弁スイッチが入る！

最初はアナウンス部の中でしゃべるだけでも顔を赤らめる、かわいい新人でした。関西人って、共通語の自分というのが何だかこそばゆくて、ぎこちないですね。私、共通語に直すのが本当に大変だったんです。一言発するたび「あ、それ違う」と言われるのが怖くて、入社から3年間くらいはすごく静かになっていました。カメラの前だけでなく日常から直せといわれて、考えてしゃべっていると先輩の前でも自分じゃないみたいで。苦しかったです。

でも4年目から、やっと切り替えができるようになった。オンエ

アで関西弁が出なくなり、同時に視聴者さんとの距離も近づいてきた気がしました。その頃なんと、朝の情報番組「ドデスカ!」を私が担当することになったんです。もう共通語でも自由自在に自分のキャラが出せるし、30歳を超えてからは関西のオバちゃん的な空気感まで出て(笑)。視聴者さんにはそれがよかったんでしょうね、「なっちゃん、なっちゃん!」と番組のキャラクター的にかわいがられるようになっていて、本当にうれしかったです。

# 自分の「引き出し」を、楽しみながら増やそう いつから始めても全然遅くない

就活では、自信に満ちてイキイキと話せる瞬間があるかないかで印象は大違いです。私の場合は留学体験談でした。どんな新しい環境でもやっていける自信とめげない力、度胸があると切り切れた。これがなかったらアナウンサー試験で落ちてましたね。自分の何が他の人と違う部分か。そこが自信を持って語れる「話の引き出し」になります。

英語や中国語などができる人は、色んな「引き出し」を追加するのをおすすめします。私は英会話だけで、そこが足りませんでした。英語ができる人はたくさんいるから、個性や差をつけなきゃ。

「引き出し」は、作るものです。興味があれば何でもいから思いきりチャレンジすること。ダンスやりたい!と思ったらすぐレッスンに通い始めて、それを続ける。書くことが好きなら書道で資格をめざす、旅行好きならいろんな国に何ヶ国も行きまくる、そういうことでいいんです。何をするにも大学から

のスタートは全然遅くないですよ。その場で「点として」楽しむだけでなく「線として」先につながることであれば、アピールできる特技になります。日本人は自信が持てない人が多いけど、何かで自分に自信がつくとそれが表に出るものです。きっと前にも出られるし、堂々としゃべれますよ。



## 「あなたにとって関西大学とは？」

人生のターニングポイントですね。関大に通ったからこそテレビ局のアルバイトにも出会えて、タレント活動につながり、メディアを目指すきっかけにもなったので。京都の大学に行っていたら、こうはなっていなかったでしょう。高槻キャンパスはすべてがギュッと詰まった、今の人生を作ってくれた場所。一言では言い表せませんね。こじんまりして高校みたいな環境だったので濃い付き合いができて、かけがえのない親友にも出会えました。今思えば関大が現在全てにつながっていますね。

そういえば、このOBOGインタビューのバックナンバーで最初の方が「関大はモテる」とおっしゃってて、ビックリしました。時代が変わった? 「関大の時代」来たのかな? って…

でも、モテへんでしょ (笑) そんな人、周りにいなかったし! なので私の印象では「関大モテ」はノーかな、申し訳ないですけど。ただメインキャンパスはもうちょっと華やかだったでしょうし、これは高槻生の個人の感想です (笑)。

(撮影・取材: 関西大学東京センターにて)



### KUT OBOG Interviewについて

関大東京センターのご利用者で、首都圏でご活躍中のOBOGの方々に登場いただき、学生時代のエピソードから現在の活動・ビジョン等をご紹介します特集です。

● 関西大学東京センター公式マスコット、忍者の“ほなくん”。おもな任務は、館内やSNSなどで広報活動のお手伝いをする事。時には取材にも参加します。



### 関西大学東京センター

100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー9階  
TEL: (03) 3211-1670 (代) FAX: (03) 3211-1671  
<http://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/>



公式Twitter



公式Facebook